



第17号
平成25年
(2013年)
10月・11月
・12月号
発行：編集
岡崎別院
輪番 福田 大

世人 薄俗にして

共に不急の事を諍あらそう
（仏説無量寿經）

昨今、「食育」ということばをよく耳にする。好き嫌いで偏食をするのではなく、何でもバランスよく食べるとのことである。しかしながら今、アレルギーの方が多くなり、個別に食べられるものが制限されるのも実情のようである。

私自身、半世紀以上も生きていて、いまさらながら「ひよつとして、この食べ物は自分にとってアレルギー物質なのかもしれない」と気付かせられる食べ物もいくつかある。顧みると、私自身、「食べたいものを、食べたい時に、食べただけ食べる」の日常生活の継続で、いまだに偏食を続け、あらゆる病気に恐れおののいているのが現状である。

「すぐおいしい、すごくおいしい」この言葉が、現在の食事情のようだ。「早くて、おいしく、安価」このこ

とを連呼して、外食産業が競ってコマースィナルを流している。その一方で、それをいただく我々も、急かされるように早く食べる。作るのも、食べるのも早い。これこそが現代の我々の食文化である。

食文化は、同時に時代社会に生きる「人間の生活のありさま」を反映している。我々の現代の食文化から、どのような社会生活が映し出されているのだろうか。

「何でも早いことがいいこと」「作るのも、食べるのも早い」現代人は、何においても短絡的傾向になってきている。犯罪の傾向や社会事情、総じて早急に結論を出し、早急に行動する。それら一連の我々の生活のありさまは、やはり現代のこの食文化から起因しているとも考えられはしないだろうか。

食は他のいのちを犠牲にしていることの事実である。他のいのちを殺してしか生きられない私、私に食べられるために生まれてきた生き物はないはずだ。この紛れもない悲しみを、本当に悲しみとして受け取れば、「いのちをいただきます」の慚愧（ざんぎ）の中で「食事」ということの大切さに立ち返ることができるのではないか。

「不急」のことを急ぎ、いのちを奪い続けている自分。忙しさの中で、本当のことを見失って生きる私が今、「食」を通して、「人間としての悲しみ」を知らされてくるのではないだろうか。

報恩講のご案内

二〇一三年十月二十三日(水)午前十時〜

鍵役 宣心院殿 御参修

講師 狐野秀存 師(天谷専修学院 院長)

講題 「青草びとの親鸞聖人」



＊駐車場・駐
輪場が完備し
ておりますの
で、皆様お誘
い合わせの上
ご参詣ご聴聞
くださいます
ようお願い申
し上げます。

分陀利華

たれのともがらも、われはわるきとおもうもの、
ひとりとしても、あるべからず。

蓮如上人御一代記聞書 五十八〜

先日、父が入院中に母の診察の日が重なり、私は、マイカーを利用して息子と同行した。車いすを押し、採尿・採血と二つの科を回った。

病院の前にはパーキングメーターがある。一時間を超えれば、場所を移して追加料金を入れるというシステムである。途中で一時間を超過し、場所を移して料金を入れたのだが、その後、私の頭から駐車に関する一切が忘れ去られていた。

支払いを済ませ、足早に駐車場所へ行くと、車に駐車違反のステッカーが貼られていた。数々の責任転嫁と憤りの思いで車を運転し、帰宅した。

「このことは、私の不注意です」。こんな素直な心は私には毛頭ない。あらゆる人に責任転嫁し、駐車違反のステッカーを貼った緑の監視員に対する怒り・腹立ちの心が満ち満ちている。

自分の立場でしか物事が見えない、聞こえない、考えられない。これが私の紛れもない事実である。

しかし、私が駐車違反をしたのは事実である。仮に私が緑の監視員ならば、当然違反ステッカーを貼ったに相違ない。また、違反者から異論を唱えられたなら、「あなたが違反したんでしょ」と、厳しい口調で返答するに違いない。

自分の立場でしか生きられない、その起因を蓮如上人は「真実に仏法のそこをしらざるゆえなり」と述べられる。このことはいくら頭で理解できても、「反則金が惜しくてしょうがない」私、仏法が身に響かない、仏法から一番遠い私が、今ここにいます。

へ別院往来

朝の法話

今年の朝の法話は、毎年のおり

七月二十五日から二十七日まで行われた。



25日 水島見一先生



26日 畠中光享先生



27日 太田清史先生

二十五日は水島見一先生（大谷大学副学長）が「救済とは何か」、二十六日は畠中光享先生（日本画家・インド美術史家）が「仏陀最期の旅（涅槃経に学ぶ）」、二十七日は太田清史先生（大谷中・高等学校）が「樹心の願い」清澤満之師に聴く」という講題で法話をいただいた。

三日間で約四百名の参詣者があり、法話の後には、パンとコーヒーが配られた。

蓮華の集い

去る九月十五日に真宗大谷派大谷婦人会岡崎別院支部「蓮華の集い」の第二回目が開催された。

第二回目は大谷大学准教授の富岡量秀先生が「子供の宗教的情操をはぐくむ意義」という講題で話された。



講義

茶話会では、子育て中のお母さん方が、子育てにおける悩みなどを富岡先生に相談されていた。

次回（十一月十五日）午前十時より、講師に樹洩陽舎舎幹の栖雲深泥先生に「出講願つて実施の予定である。

託児所



今回と同じく参加費は無料で、託児所を完備して皆様のご出席をお待ち申し上げます。

茶話会



還相社会学研究会

去る八月二日（四日、還相社会学研究会の京都大会が当院にて行われた。

「未来について」をテーマに小児科医師の梶原敬一氏、東大大学院教授の高橋哲哉氏、元教学研究所所長の玉光順正氏による講義が行われた。



模擬法要合同研修会

去る九月五日、堂衆の藤澤先生と定衆の釋氏先生が監修のもと、京都教区准堂衆会・京都教区仏教青年会・岡崎別院雅楽会の共催による一般寺院御遠忌模擬法要合同研修会が開催された。

京都、滋賀を中心に多くの方々が参加され、研鑽を積む貴重な場となりました。



〈法座案内〉

宗祖を訪ねて

- 十月三日 (木) 十四時〜 輪番
- 十一月三日(日) 十四時〜 輪番
- 十二月三日(火) 十四時〜 輪番

味読正信偈

- 十一月十三日(水) 九時半〜 輪番
- 十二月十三日(木) 九時半〜 輪番

本山報恩講参詣

- 十一月二十三日(水) 九時半〜 列座随行

定例法話

- 十月十三日(日) 九時半〜
- 山城第二組 本福寺 住職 宮城 朗 師
- 十二月二十三日(月) 九時半〜
- 山城第二組 正願寺 住職 臨 由夫 師

報恩講

○十月二十三日(水) 十時〜

大谷専修学院院長

狐野秀存師

越後の宗祖を訪ねて

次年度の三日講の聖跡参拝では、親鸞聖人の配流の地、新潟に参拝する予定です。

来年、新潟県立歴史博物館で行われる「親鸞となむの大地展」(二〇一四年四月二十六日、六月八日まで開催)を見学の予定です。

日程については左記を、詳細については別院までお問い合わせください。

月日	行	和程 (予定)
5月(水) 7日	8:00 岡崎別院前 8:30 京都東ic 11:30 加賀ic 11:40 12:40 加賀市内 (ご昼食) 15:50 名立谷浜ic 16:10 16:20 居多ヶ浜 16:30 竹之内草庵跡 16:50 赤倉温泉 (泊)	
5月(木) 8日	7:00 (ホテルにてお朝事) 8:30 ホテル 9:10 多しの里記念館 9:50 10:30 11:20 光源寺 11:30 12:20 上越市内 (ご昼食) 12:30 上越ic 14:20 新津ic 14:40 水原・無為信寺 15:30 15:40 瓢湖 16:20 16:50 月岡温泉 (泊)	
5月(金) 9日	8:00 お宿 8:40 孝順寺 9:30 9:40 安田ic 10:40 長岡ic 10:50 新潟県立歴史博物館 (親鸞となむの大地展) 11:50 12:30 米山ic 12:40 13:30 柏崎市内 (ご昼食) 13:40 米山ic 20:20 京都東ic 20:40 岡崎別院前	

期間：2014年5月7日(水)〜9日(金)〈二泊三日〉

費用：大人一人¥48,000(費用の補助を予定)

*行程は変更する場合があります。

*定員：30名

すす払いのご案内

来る十二月二十一日(土)、当院の「すす払い」を行います。終了後ホテル平安の森で入浴、忘年会を予定しています。なお忘年会の参加費は一人千円です。
※詳細は別院(竹中)までお問い合わせください。



すす払い用に制作された「団扇」
※当日はこれで扇ぎ、煤を外へ出します。

宗史蹟親鸞聖人岡崎草庵跡
真宗大谷派(東本願寺)

岡崎別院

〒606-8335

京都市左京区岡崎天王町

26番地

電話・FAX 075-771-2921

<http://okazakibetsuin.com>

info@okazakibetsuin.com